

PHD LETTER

<31>

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1989・6

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会
編集人:草地賢一
住所:〒650 神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
郵便振替:神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
定価:100円
レイアウト:エフアンドエフ

- 草の根の人々を訪ねて.....2P
- 自立を損ねる援助.....3P



フィリピン・ネグロス島の山の家族

傾斜40度をこえる急な坂を、あえぎあえぎ、ここまで来た。
息がつまりそうだった。
山に住むこの家族は、汗ひとつかかず、軽やかに、楽しげに登ってきた。
あえぐ私に、「ゆっくりやろうよ」と優しい笑顔を少しハニカみながら私にくれた。

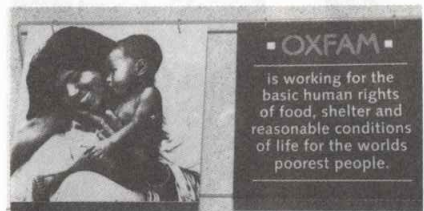
草の根の人々を訪ねて

Report from Asia and South Pacific

去る3月31日から4月8日まで外務省の依頼を受けて英国、スウェーデンそしてオランダの開発協力、開発教育の考え方を調査するために渡欧しました。

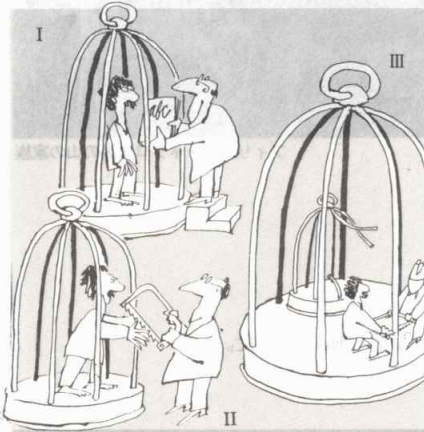
ご承知のようにこの3カ国は世界で最も先進的な第三世界への開発協力を進めて、ODA(政府開発援助費)も最大8%の額がNGO(民間国際協力組織)に回されています。

英国ではサセックス大学、世界開発教育センター、オクスファム、クリスチャンエイド、スウェーデンでは開発援助庁、ウプサラ大学、スウェーデンミッション教会、そしてオランダではICCO(Inter-church Co-ordination Committee for Development Projects)およびオランダキリスト教協議会国際協力部を訪問しました。



「世界で最貧の人々に、食物と住居など基本的な人権をみだすにふさわしい条件がもたらされるように活動しています」(オクスファム・イギリスのPRポスター)

いずれの団体も大変長い歴史を持ち、大規模な活動を展開しています。そして何故今第三世界へ協力が大切なのかを市民に訴えるため、さまざまな研究や実践が行なわれています。またこの実践は大学レベルでの研究機関の研究成果を取り入れ、学校そして主に教会を中心に地域へアプローチしているようです。その考え方を、ICCOのパフレットにあるイラストを参考にご紹介します。



図Iは1960年代の国際協力の考え方です。「即ち先進国のわれわれがやったような経済社会開発の方法を取り入れてやりなさい。私が教えてあげましょう」

図IIは1970年代の考え方、つまり「自分で経済開発を進めなさい。道具(技術)は私があげましょう」

図III「今後は一緒にやりましょう。さもなくば地球が破滅してしまいます」

この3つの段階を日本の国際化の意識にあてはめてみればどの段階なのでしょう。スウェーデンのあるNGOのスタッフが、私に語ってくれた言葉が大変印象的でした。「第三世界への協力がcharity(あわれみ)だけだとすめられるならば地球は滅びる。われわれの豊かさは第三世界の貧しさの上にある。この不正義を正義と見るか不正義ととらえるかで地球の未来は決まる」。

||||| 厳しい状況の続くフィリピン |||||

4月10日今度はフィリピンへ飛びました。この目的は7期生ドミーさんの来日の促進、来春のフィリピン比較研修の地域調査、そして次年度の研修生招への可能性打診でありました。私はマニラから北へ6時間のヌエバエシー州ガバルドンの村へ二つ目の目的のため出かけました。村へ入る途中で大変驚きました。数年前までは豊かであった田んぼが石や土で埋まり、洪水となって村に大きな被害を与えています。原生林が切り出され、保水能力が著しく減少したための被害です。村



緊急食糧の発送準備で忙しい救援センター。

熱帯雨林は次から次へと伐採され、保水能力の無くなった土地は荒れる一方だ。この人は自分の生存がはつきりとおびやかされているのを知りながら何もできません。

ガバルドンの地域組織化はそうではないにもかかわらず、共産主義者の疑いを受けられながら、それに屈せず今では村人の信頼を得て、25家族の会員を中心に自

立のための実践を進めていました。PHD研修生との交流を快く引き受けて下さいました。

4月17日緊張を新たに4回目のネグロスに向かいました。昨年にも増して島の軍事化が進んでおり、村の至るところで発砲、殺人事件が相次いでいることを聞いていたからでした。ドミーさんの送り出し団体、ネグロス司教区司牧センターのエンペスタン神父をはじめ民衆の苦しみに連なり、彼らの自立を願う団体や個人はすべて危険視されているといっても過言ではない状況です。

私も緊張しながら来年の研修に関する基本的打ち合せと、農民、砂糖農園労働者、漁民そして恐怖のため村を捨てて、都市に逃れてきた国内難民の人々の生活現場を訪ねました。その中で外国のNGOとネグロスのNGOの関係、役割分担を学ばされました。又、双方のNGOに共通な点は各々が仕える民衆、市民の間どのようなPeople Organization(自立のための民衆グループ)が生まれるのか。このP.O.とNGOの関係はどうあるべきかについて深く考えさせられました。

4月22日ネグロスを離れる朝、ネグロス救援センターを訪ねました。昨夜起きた戦闘で90人の家族が難を逃れて町を出たという情報で5人のスタッフが緊急食糧の発送準備をしていました。米2キロ、干



緊急食糧の発送準備で忙しい救援センター。魚2尾、豆1キロが2日分のこと。その後立ち寄ったエンペスタン神父のところに、若い神父がとびこんできました「教会員がアルサマーサ(反共武装自警団)に逮捕された!」。昨年12月24日殺された私の友人フレッド君と同じ教会の仲間だということです。

弱い人のために、しかも政治と関係なく人間の生存のために働く人間の、この知らせに深い憤りと悲しみの中、ネグロスをたちました。

総記事 草地賢一

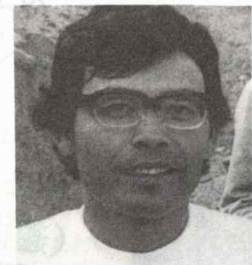
自立を損ねる海外援助

増岡裕介



PHD協会の元職員、増岡裕介さんがこの3月、ネパールに所用のためかけたおりに、第一期生B.ビスタさんに会ってきた。そこでビスタさんから聞かされた話は、援助のあり方について大いに考えさせられる内容だった。

おりしも日本国内でも政府開発援助(ODA)のあり方をめぐって論議が起こっており、増岡レポートをもとに、皆さんとともに、これらの問題について考えていきたいと思う。



ビスタさんは、民間団体の職員として農村に住み込み、農村域の生活改善を進める役割を担っている。村の開発全般すなわち、農業、保険衛生、教育の問題と取り組んでいる。ビスタさんたちの活動の様子については、昨年、彼を現地に訪ねたPHD協会の藤野さん報告(PHDレター28号)等で理解はしていた。「水道を引く作業を村人総出で行なった。またその経費は、外部の補助を得ながらも、できるだけ村人自身がわずかな収入の中から費用を出すよう努めた」。自分達の村の問題を自分たち自身の力でやろうとしている様子がかがわれ、私は嬉しく思っていた。

ところが、今回ビスタさんに会って聞いた話は意外だった。「村の人たちが仕事をしなくなってしまいました」と。彼の属する団体へは、外国からの援助が入っている。当然、外国からの訪問者も多い。村の人々にとって、以前は物珍しく写っていた外国人の姿も、今では外国人がビスタさん達現地ワーカーと村に入ってくると、「彼らのところに外国から金が入

るぞ」と考えてしまうようになってしまった。私も行ったことがあるが、ビスタさんたちの関わっている地域は、首都カトマンズ近郊の村もあれば、徒歩で数日を要するかなり僻地もある。比較的容易にジープ等で、町と行き来できる村の人はもちろんだが、僻地の村の人々でさえ、外国からの援助金というものを強く意識し始めているらしい。「外国からお金が入ったのだから?だったらその金を使って、わしらのためにいろいろしてくれよ」と村の人は言うらしい。

もちろん、ビスタさんたちは、村の生活改善のために、物資を支給したり、材料を買ったりと、お金は使っている。しかし、あくまでも目指しているものは村の人々の自立である。自分たちの力で生活の改善に乗り出せるように働きかけること、つまり、村の人々への動機づけを主な課題として取り組んでいるのだ。「物を与えるのは易しいです。先生のように知識や技術を教えるのも易しいです。でも、それだけでは本当に村の人たちが作っていく村にはなりません。村の人たちが、今の自分たちの問題を知り、どうしたらよいかを自分たちで考え、そして動いてみることを、そのように自分たちで村づくりに参加するようにしていくことが私たちの仕事です。これをしなさい、と押しつけるのはダメ。自分たちで考えてもらい、そして、やってみよう。失敗するかもしれない、しかし、させてみる。失敗したらその時に、どうして失敗したのだろうか、どうしたら次は良くなるのだろうか、また皆で考えてみます。そうしていると、自分たちで村の問題を解決していこうとする力がつてきます」と、3年前に、ビスタさんの村で、彼から聞きながら、「村づくりというのは、なんと時間がかかり、なんと根気

のいる仕事なんだ!」とため息まじりに強く感じ、何年も村の中で頑張っているビスタさんたちに敬意の念を表さずにはおれなかったことを、私は思いだした。

今、そのビスタさんの地域の人々の自助努力への意欲が失われつつある。金や物を与えてくれる援助に目がくらむと同時に、村人をまるで物乞いの集団へと変化させつつある。これまで村人と何度も何度も話し合い、村人とともに頑張ってきたビスタさんたちの努力が水の泡になってしまうのではないか!いや、ビスタさんたち事務所の人たちよりも、直接に関係するのは村の人々自身なのだ!!

金や物を与える援助、協力が100%悪いとは、私は思わない。資金が必要なことは、当然あるのだ。しかし、方法をよく考えないと、逆効果になる危険性があることも事実だ。

援助、協力によって生じた農業生産高の変化であるとか、乳幼児死亡率の変化などは数字で示され、評価もしやすいだろう。それらに比べ、人々の生活の営みの意欲というものは数字で表されただけに、評価しにくい。目に見える効果はすぐには表れなくとも、自分たちの身の回りの問題を自分たちで意識化し、問題を解決していこうとする力を育てていくこと。これは本当に容易なことではないと思うが、援助、協力を考える上で、非常に大切な視点ではないだろうか。

農村の発展(村づくり)及びその協力というものを考えるとき、経済的、社会的など様々な視点から分析していくべきであろうが、教育的な視点(人間の成長についても加わるべきであるという気がしてならない。

他の団体のネパール人からは、「日本人がやって来ると、いつも後から内部でけんかが起きる」というショッキングな発言を聞いた。「お前、いくらもらっただろう」「いや、私はもらっていない」といったけんからしいが、仲間の間では相互不信にもなりつつある、と言っていた。やって来る日本人が相手側のために、という思いで、物やお金を与えた事実があったからこそ起きるけんかだろう。

私たちの気持ち、善意、協力が、果してどのような影響を相手側に及ぼすものなのか、私たちは問う必要があると思う。

ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

研修生レポート



มังคม ศรีเจริญ
サンコム・スイーチャロン
 (通称サンコムさん)

タイ、カラシン県、クタイ村
 男性・独身・24才・仏教・農業
 研修内容：農業（稲、野菜、畜産、協同組合）
 第6期1班として来日していたワラヤさんの隣部
 落からサンコムさんはやってきました。タイの中
 で最も自然条件が厳しいといわれる東北部（イ
 サーン）に彼の村はあります。
 雨期には河川が氾濫しやすく、長い乾期には灌漑
 施設が不十分なため、土地が干上がります。同地
 域には農民による組織「農民協会」があり、彼は
 そこからの推薦でやってきました。ひょうひょう
 とした彼ですが、なかなかの負けず嫌い。辞書を
 よく忘れるのが玉に傷。しっかりサンコムさん。

「ほかほかべんとうが
 だいすきです」

「にほんご
 は、むずかしい
 けど、ずをしひい」

DOMINADOR GELOGO
ドミナドル・ヒロゴ
 (通称ドミーさん)

フィリピン、ネグロス西州、オリンガオ村
 男性・独身・26才・キリスト教・農業
 研修内容：農業（土壌改良、農具作成など）
 彼の名前のつづりから、てっきりゲロゴと読むのだと思って
 ましたら、本人にきくと、スペイン語読みが「ヒロゴ」と発音
 すること。間違えやすいので、この1年「ドミー」と呼んで
 いきます。加古川のホームステイ先の食事時にボツリと
 「これを村のお母さんに食べさせてやりたい」ともらしたそう
 です。やさしい彼はギターも上手です。

TONNY YOKE
トニー・ヨーク
 (通称トニーさん)

バブアニューギニア、ラエ市
 男性・独身・26才・キリスト教・青年農業センター指導員
 研修内容：農業（稲、野菜、畜産、協同組合）
 お待たせしました。南太平洋地域から初の研修生
 です。小柄な彼ですが意欲は人一倍。そしてとて
 もジェントルマンなんです。もの静かに勉強に
 とりくも姿はシブイ！バブアニューギニアではヤ
 ングペラ・ディティマンと呼ばれる青年農業セン
 ターの指導員として、農村をまわっています。

7期

研修生スケジュール

	6月	7月	8月	9月
ドミー	兵庫 小野市 広島 庄原市 神石町	兵庫 市島町 加美町 黒田庄町	草生塾	
トニー	兵庫 南淡町 小野市 五色町	岐阜 氷上町 兵庫 永上町	草生塾	
サンコム	兵庫 小野市	和歌山 和歌山 南部川村	兵庫 中町 八千代町 加美町	草生塾
ファイジン	兵庫 御津町	兵庫 香住町	まとめ	
ベディ	静岡 西伊豆町	兵庫 香住町		帰国

滞在先インタビュー

ベディさん、ファイジンさんは3月に兵庫県室津で学びましたが、その際、生活面で世話いただいた一人暮らしの84才の富田たま子さんに彼らの印象をお話してもらいました。



「外国人ということでお気遣いがあったのでは私はハタチすぎから台湾、朝鮮、満州と暮らし、あちこちで大変世話になってきてます。一郎、二郎が寝るところがないから私のとこに来なはれという泊まってもらたんですけど、なんてことあらへん。礼儀正しいし、真面目だし、ええ子たちです。」

「ちょっと待って、その一郎、二郎というのは？
 ベッジヤ、ファインとかいうて、ややこしい、かなんから、一郎、二郎ということにしましたんや。」

「（ウツと詰まる。この人強いわと思いつつ）まわりの皆さんとはどうですか？
 近所の人にも好いてもうて、これオカズにしていうて届けてくれるし、国へ帰るときに嫁はん探してやるいうて、えらいこっちゃ。」

「それはえらいことですが、研修ぶりはいかがですか？
 船の上のことは吉村君とこの大將にきいてか。せやけど、あんまり口数は多ないけど、カンがよろしい言うてましたで。村へ帰ってからがんばりやいうて毎晩ハッパかけてますのや。」

これぞまさしく草の根交流。とても家庭的な雰囲気の中で二人はお世話になっているようで、こちらも嬉しくなってきました。技術の勉強もさることながら、人と人のふれあう中から大切な事柄を学んでいるような気がしました。

6期2班

H. ベディさん (インドネシア)

兵庫県御津町室津でイカナゴ漁の経験の後、静岡県西伊豆町田子で養殖とキンメダイの魚の研修を受けました。さらに6月は兵庫県香住町の香住高校の生徒さんといっしょに1ヶ月学びます。日本で行なっているからといって、そのまま使える技術は設備、資金の面から少ないかもしれませんが、多くの体験が必ずどこかで役立つと思います。



西伊豆町田子で養殖の実習をおこなう

M. ファイジンさん (インドネシア)

室津での研修の後、姫路でクルマエビの養殖を学び、5月に入りと歌山県湯浅町、中旬から再び室津、6月はベディさんと共に香住で学びます。7月はこの1年のまとめを行い、中旬にスマトラに戻る予定です。研修期間も残すところあとわずか、精一杯学んでいって下さい。



室津でサワラ漁にた。

**神戸YMCA
 ランゲージセンター
 日本語の先生の声**
 「例年に比べ期間が少し短かったので心配しましたが、今では普段の会話にも日本語がとびだすようになり安心しています」石原先生
 「他の二人がわからない所をトニーさんが助けていました。サンコムさんはひらがなに興味を示し一番活発でした。ドミーさんは一週間の遅れをとりもどそうと一生懸命勉強しましたね」小泉先生
 二指導ありがとうございました。

ネグロス ミニメモ

フィリピン中部に位置し、大きさは四国の2/3、フィリピン最大の砂糖生産地で東・西の二つの州に分かれ、西州では人口の3/4が砂糖きび産業に従事していました。先進国の砂糖需要の落ち込み(ダイエット!!)や84年の国際価格の暴落、政府の施策の失敗により不況に陥り、仕事があっても賃金は1日当り120円以下、更に失業者も増え、飢餓が広がりました。その状況の中で生きのびようとする人々と土地や財産を守ろうとする地主及びその自警団や「反政府」勢力を抑えようとする軍部との間に武力を伴った争いが起こっています。人々はいくつかの民衆のための団体を組織し、自立に取り組んでいます。このたびネグロスにあるネグロス西司教区司教センターを窓口として、西ネグロス州オリンガオ地域から零細農民協会(SFA)

パプアニューギニア ミニメモ

に属するドミーさんを招くこととなりました。PHDとしてはフィリピンからはルソン島ラグナに次いで二つめの地域となります。
 1975年独立の新しい国です。国土は日本の1.2倍で、日本から真南に下り、赤道をこえたところに位置します。人口は約360万人。首都はポートモレスビー。250ほどの言葉がありますが共通語としてピジン語を使います。75%がキリスト教。通貨はキナで1キナ約155円です。銅、コーヒー、木材、パーム油などが主な輸出品で、農業はこれまでは焼畑を主とする移動農業でしたが、定着したものへの転換を図っています。主食はヤム・タロ・サツマ芋、バナナ、コーンなど。

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため掲載しておりません。

ご寄付に対する免税の特典

寄付者が個人の場合

寄附金合計額(所得金額の25%未満)マイナス1万円
寄附金控除額(所得総額から控除できる額となります)

(例) 1000万円の所得の人が250万円を寄附されると。
249万円の寄附金控除。

寄付者が法人の場合

寄附金合計額が一般寄附損金算入限度額の2倍未満までが損金扱いとなります。

(例) 資本金10億円で、その年の所得が3億円で1年決算の会社の寄附金の損金算入額は1,000万円未満まで。(一般では500万円)

会員制度のご案内

PHD運動は会員によって支えられ、すめられています。ぜひ会員としてご参加下さい。

終身維持会員：1010万円 会 員：年額105千円

友の会 会 員：年額500円以上 任意の額

(ジュニア対象)

郵便振替

神戸1-29688

財団法人ビー・エイチ・ディー協会

ロータスクーポン・グリーンスタンプ・ブルーチップ

1989年2月1日～4月30日までの協力者ご芳名 順不同、敬称略

桜井隆太郎・博子

白浜小学校地域教育部

見本



ロータスクーポン、グリーンスタンプ、ブルーチップの送り先は

〒650 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202 TEL.(078)351-4892
PHD協会宛に